

第 2 章 計画をとりまく状況

1 柏市の概況

柏市は、千葉県北西部に位置し、東西の距離は約 18 キロメートル、南北の距離は約 15 キロメートル、面積は約 114.7 平方キロメートルです。隣接する市は、東に我孫子市・印西市、利根川を挟んで茨城県取手市・守谷市、南に鎌ヶ谷市・白井市、西に松戸市・流山市、北に野田市となっています。

鉄道は、都心から放射状に J R 東日本・常磐線、常磐緩行線及び首都圏新都市鉄道・つくばエクスプレスが、南北には東武鉄道・野田線(東武アーバンパークライン)が通っており、駅があります。

道路は、東京・茨城方面への国道 6 号線や常磐自動車道、埼玉・千葉方面への国道 16 号線が通っており、首都圏の放射・環状両方向の交通幹線の交差点に位置する交通の要衝となっています。

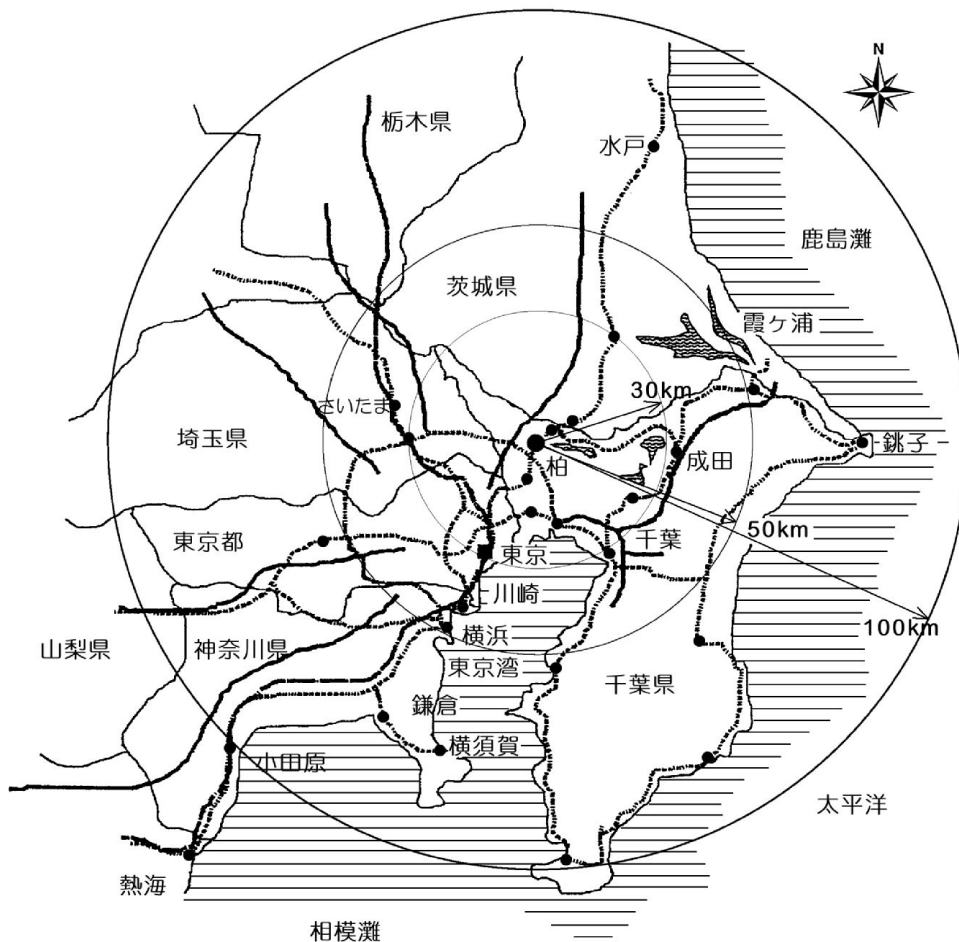


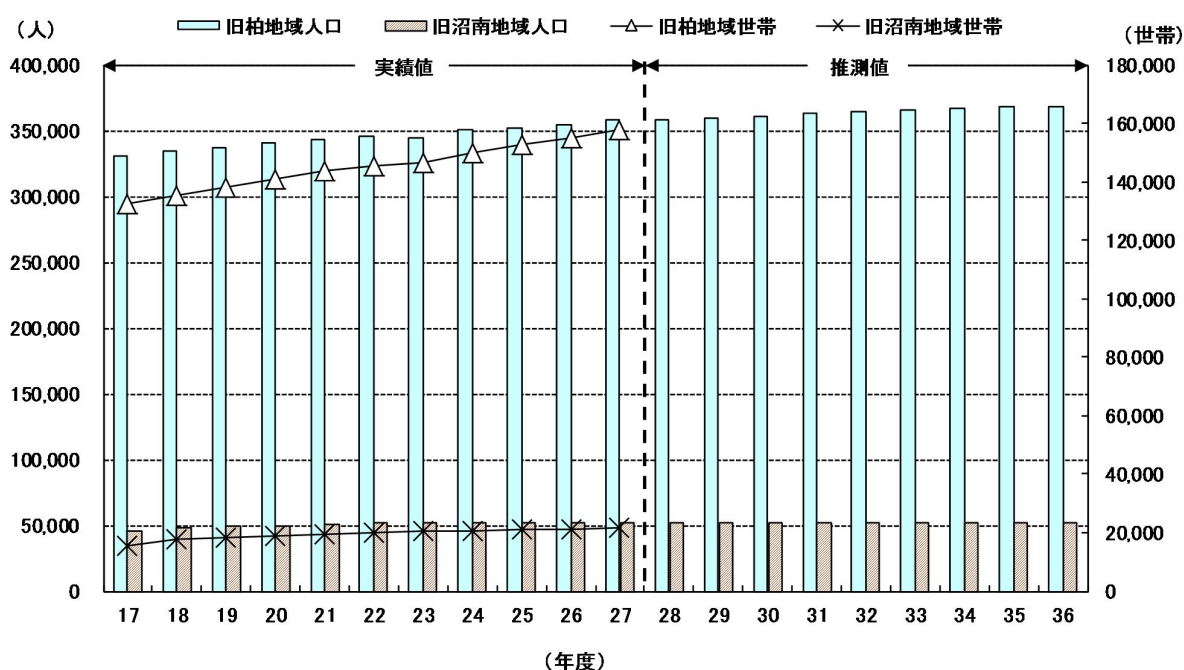
図 2-1 柏市の概況

2 人口

柏市は、平成27年3月末日現在で人口410,033人、179,764世帯となっています。

人口は、つくばエクスプレス開業を契機とした沿線地区のまちづくりの進展により、平成22年8月に40万人を突破し、その後も緩やかに増加しています。

今後、つくばエクスプレス沿線地区の開発を中心とした人口流入により、当面は人口増加が続くことが予想されますが、全国的な少子高齢化の流れの中で、人口の伸びは次第に鈍化し、平成37年をピークに、本市の総人口は減少に転じると予想されています。



年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
旧柏地域人口	330,329	334,066	328,492	340,411	343,422	345,512	344,648	350,200	352,296	354,511
〃 世帯数	132,433	135,392	129,012	141,152	143,440	145,445	146,400	150,168	152,723	155,224
旧沼南地域人口	45,689	47,933	48,894	49,816	50,766	51,555	51,603	52,137	52,065	52,324
〃 世帯数	15,280	17,860	18,454	18,957	19,506	19,988	20,267	20,631	20,865	21,309
年度	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
旧柏地域人口	357,576	357,859	359,521	361,109	362,595	363,988	365,323	366,559	367,672	368,660
〃 世帯数	158,061	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧沼南地域人口	52,457	52,300	52,298	52,279	52,244	52,184	52,095	51,981	51,825	51,638
〃 世帯数	21,703	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1 実績値は、各年度末の住民基本台帳人口及び世帯数。

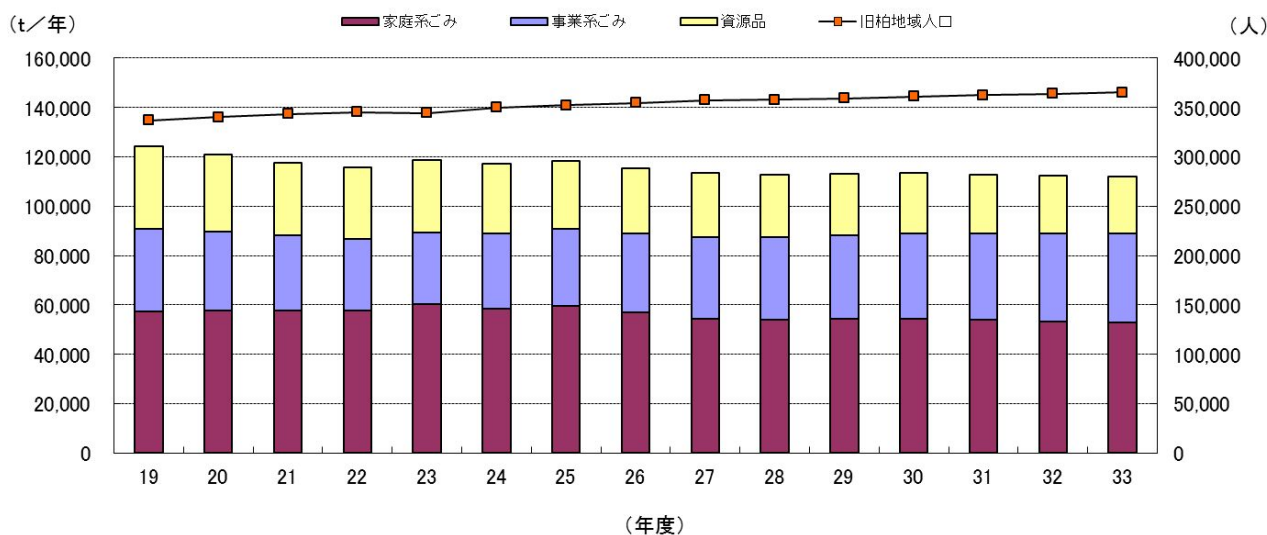
注2 推測値は、企画調整課による公表「人口推計」の最新版(平成27～37年の各年予測)を用いた。

図 2-2 柏市の人口・世帯数の推移

3 ごみの排出状況

平成 27 年度のごみ排出量は、家庭系一般廃棄物が約 8.0 万 t，事業系一般廃棄物が約 3.3 万 t となっており，人口及び世帯数が増加する中，様々な減量施策により家庭系一般廃棄物は減少傾向にあります，景気の回復に伴い事業系一般廃棄物は増加傾向にあります。

今後については，当面，つくばエクスプレス沿線地区の開発を中心とした人口の増加が見込まれることから，ごみ量は，なお堅調に推移することが見込まれます。



	19	20	21	22	23	24	25	26
旧柏地域人口(人)	336,929	340,411	343,422	345,512	344,648	350,200	352,296	354,511
総排出量(t/年)	124,279	120,992	117,693	115,577	118,730	117,135	118,190	115,479
家庭系ごみ	57,435	57,858	57,594	57,655	60,251	58,583	59,448	57,151
事業系ごみ	33,460	31,974	30,679	29,161	29,175	30,404	31,394	31,971
資源品	33,384	31,160	29,420	28,761	29,304	28,148	27,348	26,357

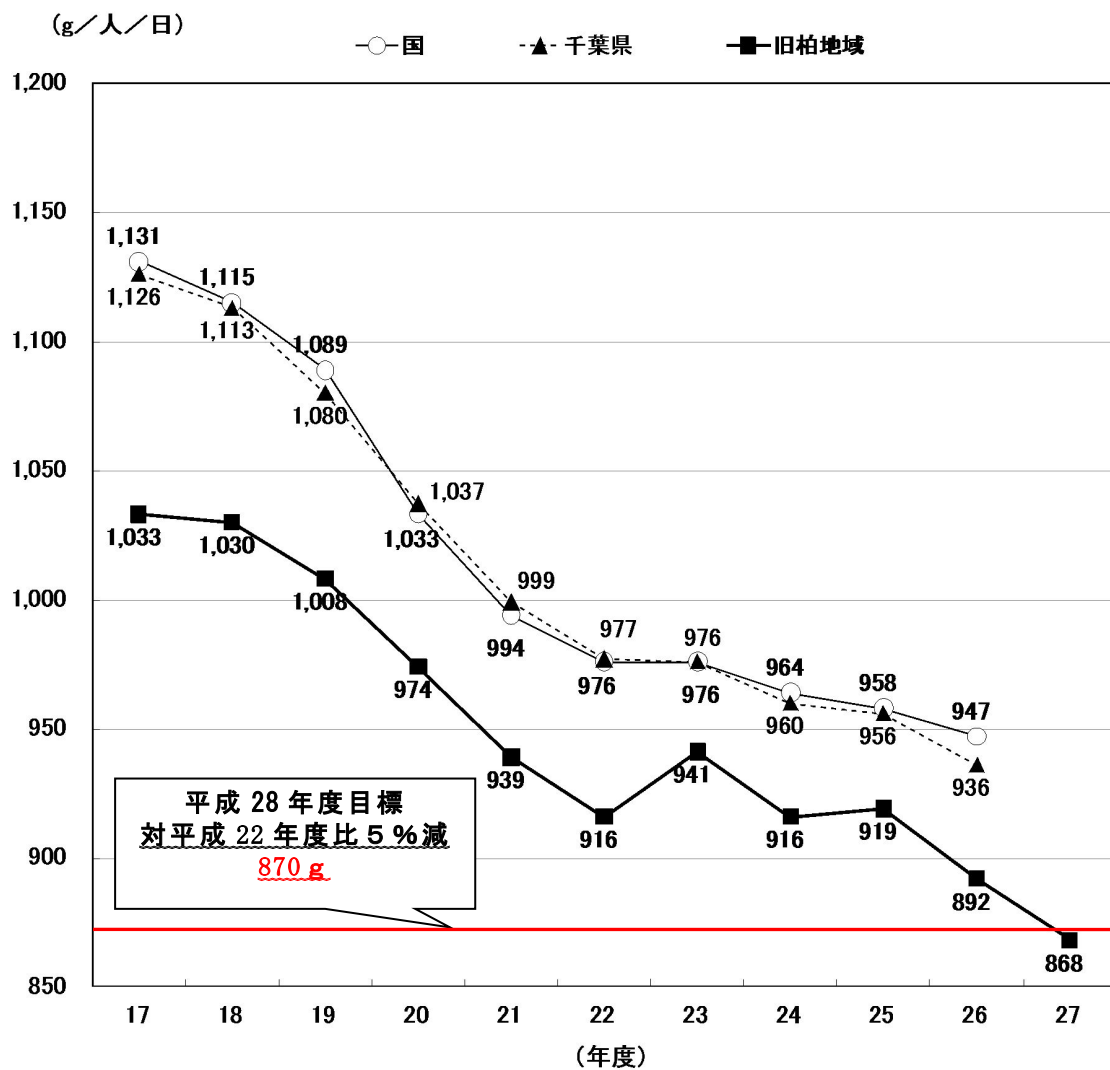
	27	28	29	30	31	32	33
旧柏地域人口(人)	357,576	357,859	359,521	361,109	362,595	363,988	365,323
総排出量(t/年)	113,554	112,935	113,157	113,365	112,932	112,520	112,134
家庭系ごみ	54,316	54,100	54,241	54,369	53,864	53,384	52,933
事業系ごみ	33,288	33,475	34,076	34,644	35,179	35,683	36,162
資源品	25,950	25,360	24,840	24,352	23,889	23,453	23,039

図 2-3 ごみ排出量の推移

4 排出原単位の状況

旧柏地域における市民1人1日当たりのごみの平均排出量（排出原単位）は、平成27年度で868g/人/日となっており、全国平均・千葉県平均と比較して、いずれも下回っております。

なお、この値は、現計画における平成28年度目標値（870g）を達成しています。



注 原単位の算出に際し、国・県統計では年間平均人口を使用し、旧柏地域は年度末住民基本台帳人口を使用している。

図 2-4 排出原単位の状況

旧柏地域における市民 1 人 1 日当たりのごみの平均排出量（排出原単位）の内訳をみると，家庭系は減少傾向にあります，事業系は平成 23 年度以降増加傾向となっています。平成 27 年度は，家庭系 613g/人/日，事業系 255g/人/日となっています。

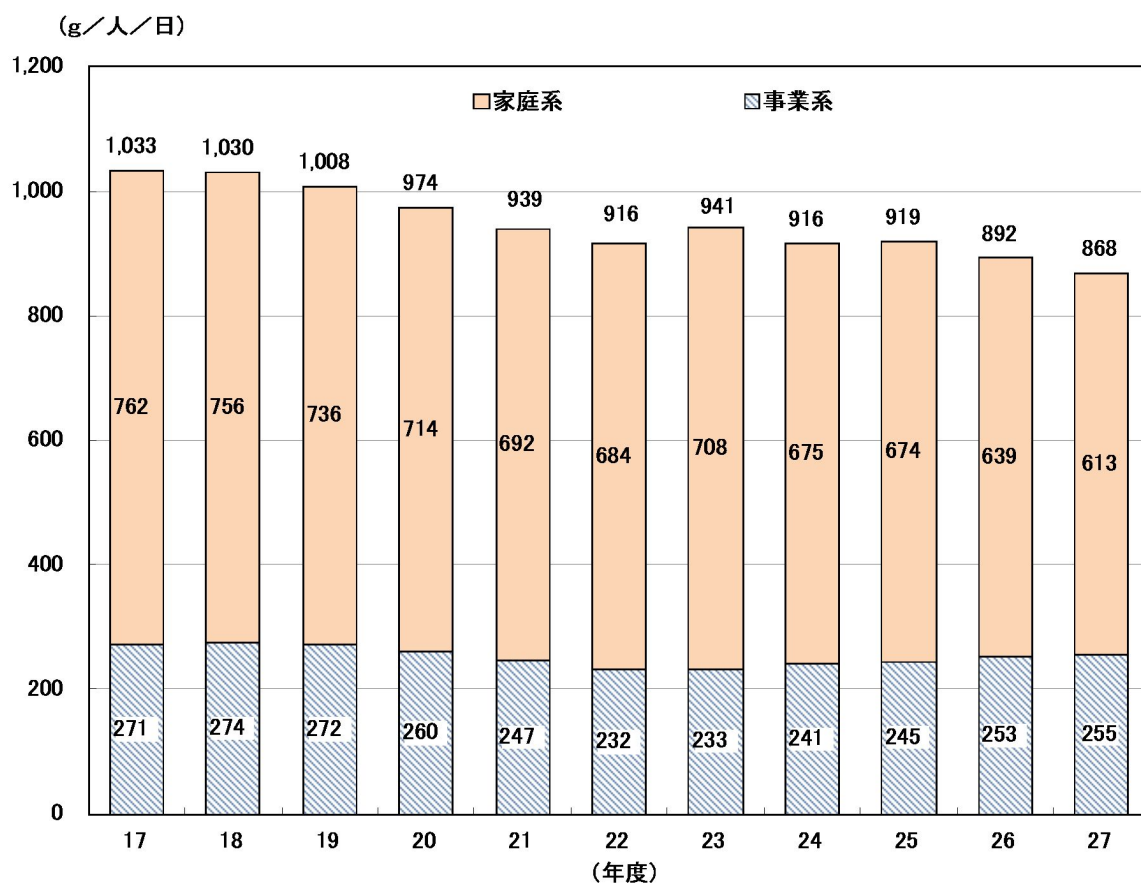


図 2-5 排出原単位の状況

5 焼却処理の状況

旧柏地域におけるごみの焼却処理は、ごみ量の増加に伴い、柏市第二清掃工場（以下「南部クリーンセンター」）を建設し、平成17年度から南北二清掃工場体制で処理を行っています。

平成27年度のごみ焼却処理量は、北部クリーンセンターで60,336t（165t/日）、南部クリーンセンターで31,596t（86t/日）となっております。

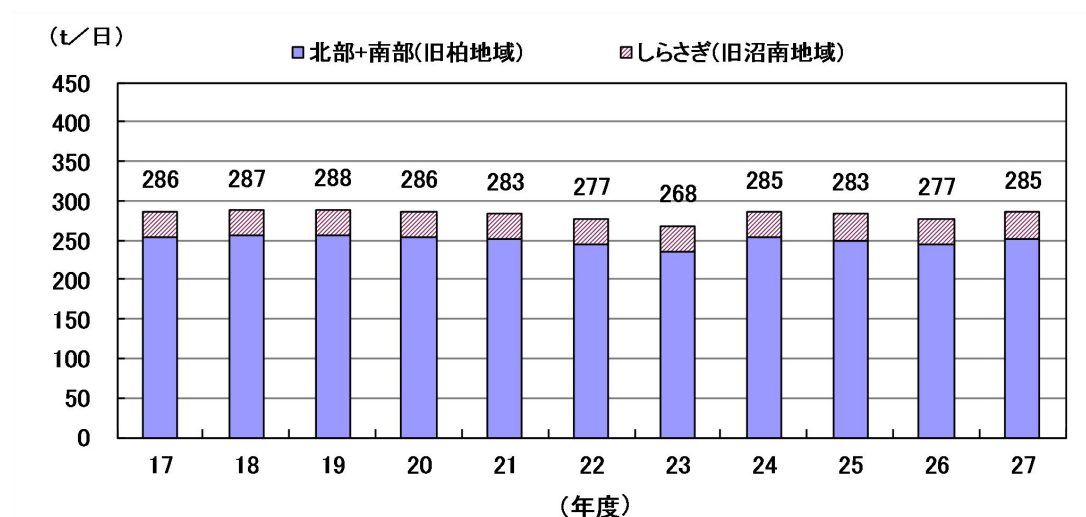


図 2-6 焼却処理日量の推移

【ことばの解説】計画処理能力

適正な焼却処理のためには、焼却炉の定期的なメンテナンスが必要です。

そのため、実際に焼却できる量は、焼却炉のカタログ上の仕様よりも少なくなります。その、実際に焼却できる量が、計画処理能力です。

北部クリーンセンターの焼却炉の仕様は1日300tですが、計画処理能力は222t、

南部クリーンセンターの焼却炉の仕様は1日250tですが、計画処理能力は175t、となります。

6 資源品の収集量と資源化率の状況

旧柏地域における資源品については、古紙を中心に、収集量、総資源化率とも、平成 19 年度以降減少傾向にあります。

これは、新聞、雑誌の購読者の減少等ライフスタイルの変容が主たる要因と考えられます。また、草木類や焼却灰については、平成 23 年度以降は基準値を超える放射性物質が確認されたため、資源化を中止していることも影響しています。

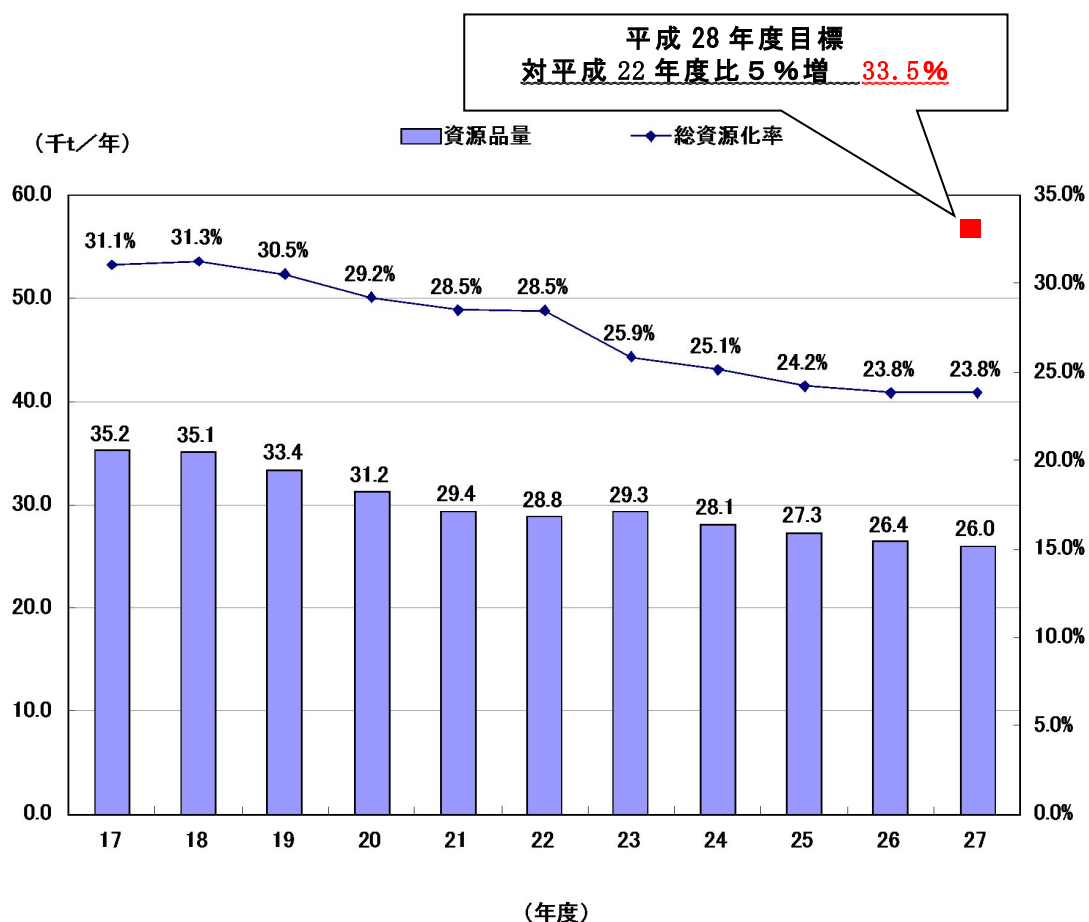


図 2-7 資源品の状況

7 最終処分の状況

旧柏地域における最終処分量（柏市最終処分場において埋立処分する焼却灰の量）については、灰溶融施設を有する南部クリーンセンターが本稼動した平成17年度に大幅に減少して以降、横ばい傾向となっていました。しかし、平成23年度以降は放射性物質を含む焼却灰について、資源化を中止し、緊急的かつ臨時的な措置を講じているため、最終処分量が増加しています。

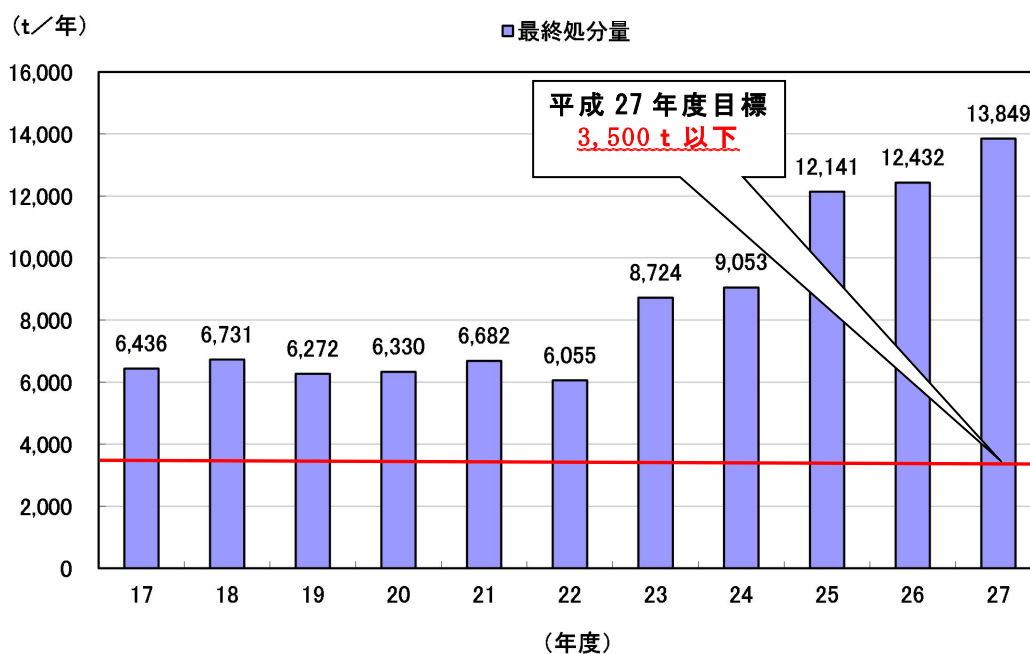


図 2-8 最終処分量の推移

8 ごみ処理に係る経費の状況

旧柏地域におけるごみ処理に係る経費（減価償却費を除く原価）については、32億円から40億円の間に推移しています。

ごみ処理経費の主内増減要因は、資源品の売却価格の変動（資源品売却額が上がれば、ごみ処理原価は下がる）にあり、ごみ処理に必要な費用そのものには、あまり変化がない状況です。

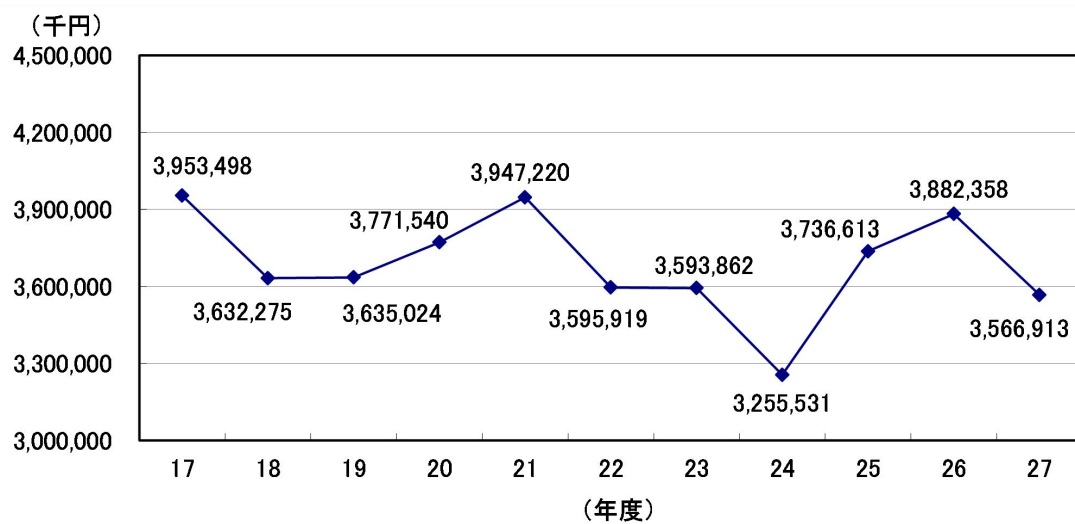


図 2-9 減価償却費を除くごみ処理原価の推移

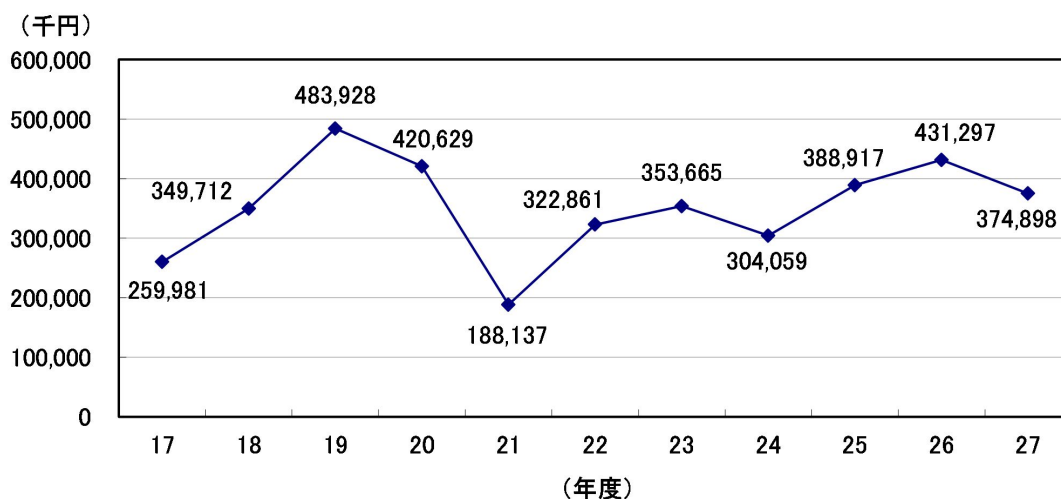


図 2-10 資源品売却額の推移